

大分市報

(一) 昭和14年7月1日

毎月1日・15日発行

一般会計歳入歳出予算	
歳種	(単位千円)
予算額	総予算に対する割合
933,572	(19.6%)
888,595	(18.6)
784,586	(16.4)
615,499	(12.9)
376,047	(7.9)
274,569	(5.8)
269,511	(5.7)
216,768	(4.5)
141,543	(3.0)
136,289	(2.4)
75,263	(1.5)
46,890	(1.0)
計	10,000 (0.2)
47億6923万2千円	

歳種	予算額	予算に対する割合
市庫支交	1,822,732	(38.2%)
税金積入金	1,319,124	(27.7)
支給金及付越入	443,000	(9.3)
金庫預金	425,400	(8.9)
支取金	252,914	(5.3)
支取金	143,318	(3.0)
計	99,987	(2.1)
47億6923万2千円		

第2回定例市議会

第2回定例市議会が六月十三日から十四日まで開かれ、四十二年の一般会計補正予算案などを議案十一件が原案より可決されました。四十二年度の予算は市長の改選期にあたっていたため、必要経費を計上したいたるにわざと市の公約を実現するため、第一回安東市政の公約を改め、市政の要綱は民生の安定と福祉の増進および産業文化の向上を堺を中心とするもので、市長は「市長は市長は二回に亘るこの基本方針に基づき、次のように述べました。

補正予算九億一千萬円

安東市政の施策を盛込む

議会開会の初日、安東市長は二回に亘るこの基本方針に基づき、次のように述べました。

「市政の要綱は民生の安定と福祉の増進および産業文化の向上を堺を中心とするもので、市長は市長は二回に亘るこの基本方針に基づき、次のように述べました。

議会開会の初日、安東市長は二回に亘るこの基本方針に基づき、次のように述べました。

骨格予算に肉付け



発行所 大分市役所
編集兼发行人
大分市役所代表者
辛島公一郎

この日の追加で大きなものは土木費三億三千円と教育費一億九千五百円ですが、事業費別の内容は次のとおり。

「土木費」三億二千万円
主なものは道路の改良舗装、橋梁の新設改良などに一億七千万円、市営住宅四十戸の建築費一億円、市営住宅四千五百円、大分城跡整備費六百万円など。

「教育費」二億九千五百円

主なものは小中学校、義務学校、幼稚園の施設整備費に一億六千万円のほか、PTAの負担額をはかるため、小中学校、義務学校の營繕費八百万円を追加。

教育施設の整備はすでに当初予算を一億四千円で、林道工事費七百万円、坂ノ市沖の漁港設置費やノリ養殖の防油桶補助金なども含まれます。

この日の追加で大きなものは土木費三億三千円と教育費一億九千五百円ですが、事業費別の内

容は次のとおり。

「土木費」三億二千万円
主なものは道路の改良舗装、橋

梁の新設改良などに一億七千万円のほか、PTAの負担額をはかるため、小中学校、義務学校の營繕費八百万円を追加。

教育施設の整備はすでに当初予

算を一億四千円で、林道工事費七百万円、坂ノ市沖の漁港設置費やノリ養殖の防油桶補助金なども含まれます。

この日の追加で大きなものは土木費三億三千円と教育費一億九千五百円ですが、事業費別の内

容は次のとおり。

「土木

7月のお母さん教室

7月のお母さん教室の開催日は1日、8日、15日、22日、29日の各土曜日。料金は無料。各回収も13時30分から寿町県社会福祉会館二階小ホール。

母子福祉資金

献血にご協力を

午後1時30分から文化会館で開

事業計画など決める

72年度
防犯連絡所の運動を活発化

「決議文」満場一致で可決

暴力絶滅協議会総会

昭和四十二年度の大分市暴力絶滅協議会

第一回個人四人を表彰し、感謝状と記念品を贈りました。

このあと木下知事(代読)、小林県議会議長(代読)の祝辭に

には自治委員、防犯連絡所責任者

など四百名が参加し、安東市長が

「生涯のかけにかくわて根を下ろ

そうとしてる暴力を追放するた

め、これからも一層の協力を

願いします」とあいさうし、昨年

暴力絶滅(積極的に協力した団体

減運動を市民生活に密着したもの

について、会長をつとめる安東市長

が講長となって、四十二年度の

長が講長となつて、四十二年度の

が講長となつて、四十二年度の

が講長となつて、四十二年度の